

「あなたの信仰があなたを救った」

年間第 11 主日・C 年 (16. 6. 12)

主が罪を取り除かれる

今日の第一朗読は、旧約聖書のサムエル記からとられております。実は、このサムエル記ですが、イスラエルの民が、自分たちにも他の国民の^{ほか}ように王が必要であると主張した結果、イスラエルにも王制が始まった頃を語っている歴史書であります。そのまさに大転換期に最後の士師として活躍したのが、サムエルにほかなりません。

ちなみに今日の朗読箇所ですが、ダビデ王が部下の妻バド・シェバを乗っ取るという姦通の罪を犯してしまった^{あと}後の後日談が語られているところであります。

そこで、すでにこのバド・シェバがダビデ王の子を宿してしまったことを、隠すためにその夫ウリアを戦死させてしまったというのであります。

ですから、今日の個所の前の 11 章の最後に「しかし、ダビデのしたことは主なる神の目に悪と映った。」(サムエル記下 11. 27c) と、初めて神の介入を語り始めております。

したがって今日の個所が、預言者ナタンがダビデ王に向かって神の御心を直接告げる場面になっております。しかもなんと、たとえを用いて遠回しに神の真意を知らせるという手法を使っております。

そこで、その譬えを、聞いたダビデは、即座に「主は生きておられる。そんなことをした男は死罪だ」(同上 12. 5bc) と激怒します。すると、ナタンが、ダビデに向かって叫びます。「その男はあなただ。」(同上 12. 7b) と。

さらにナタンは、ダビデに向かって「主の言葉を侮り、わたしの意に背くことをした」と、ダビデの罪の正体を確認する神のことばを告げます。

このように神から預言者の口をとおして罪を告発されたダビデは、「わたしは主に罪を犯した」と初めて告白します。つまり、罪こそが神への反逆にほかならないことを謙虚に認めたのであります。

これが、まさに赦しにつながる^{まこと}真の罪の告白にほかなりません。

なぜなら、ただ神のみが罪を赦すことができになるのですから、なによりも、神との関係を明確にすることが肝心だからであります。

ですから、そのときのダビデの罪の赦しを願ったとされる感動的な詩編 51 編で、次のように謳われております。

「あなたに背いたことをわたしは知っています。

わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。

あなたに、あなたのみわたしは罪を犯し
御目に悪事と見られることをしました。
あなたの言われることは正しく
あなたの裁きに誤りはありません。」(詩編 51. 5-6)

あなたの信仰があなたを救った

次に今日の福音ですが、これまた、神の赦しの素晴らしさを雄弁に物語るエピソードを伝えております。

まず、ルカは今日の場面設定を次のように行っております。

「そのとき、あるファリサイ派の人(シモン)が、一緒に食事をして欲しいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。」と、いつもイエスに対立するエリート集団であるファリサイ派のシモンが、なんとイエスを食事に招待するという異例なケースと言えましょう。

次に今日のテーマである罪のゆるしと愛との相互関係を説明するために一人の罪深い女を登場させ、彼女のイエスに対する仕種しぐさを、次のようにこまやかに描きます。

「香油の入った石膏の壺を持って来て、後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。」と。

この罪の女の大胆な行動を目の当たりにした主人シモンは、ひそかに心の中でとっさに次のようなことを思ったというのであります。「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人が分るはずだ。罪深い女なのに。」と。

そこで、彼の思いを見抜かれたイエスは早速たとえを話されます。つまり、金貸しから借金をした二人の人物を登場させ、たとえば、両方の借金を帳消しにした場合、「どちらが多くその金貸しを愛するだろうか」と、なんと愛の問題に飛躍させるのであります。つまり、赦しと愛の緊密な相互関係について教えようとする意図がイエスにはあったと言えましょう。

ですから、イエスは、このシモンに向かって結論を宣言します。

「だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさに分かる。許されることの少ない者は、愛することも少ない。」

したがって、大きな罪を重ねたダビデ王も、主なる神に対して大いなる愛を示したことになるのであります。罪の赦しと愛は、まさに相互に影響を与えと言えましょう。つまり、多くの罪の赦しによって神の愛を身に染みて感じるのです。神をより深く愛することができるようになるのであります。また、同時に神が愛してくださった結果、罪の赦しを実

感できるので、神をより一層愛することができるようになるのではないのでしょうか。

しかも、イエスの宣言にあるように、信仰こそが救いを引き出すのであります。つまり、愛によって示す信仰によって、救いの次元に引き上げられるのであります。

「あなたの信仰が、あなたを救った。安心して行きなさい。」と、イエスは宣言なさいました。

このように、愛である信仰は、救いの新たな一方を踏み出す体験にほかなりません。

ちなみに、ヨハネはその手紙の中で、次のように愛の連鎖反応を説明しております。

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪の償^{つぐな}う<いけにえ>として、御子をお遣わしになりました。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの中にとどまってくださり、神の愛が、わたしたちの中で全うされるのです。」（一ヨハネ 4.10-12）

今週もまた、このミサによって派遣されるそれぞれの家庭、職場、地域社会で、愛の実践に励み、神のいつくしみをあかしできるように共に祈りましょう。